



第55回 全国糖尿病週間 石川県民糖尿病フォーラムin能登

新年のご挨拶

揺るぎのない病院へ向かって

院長 西澤

誠

あけましておめでとうございます。まずは、新元号となり初めての新年を迎えましたことを喜びたいと思います。

新病院となり三年が経とうとしています。おかげさまで通院される患者さんも少し増えており、地域の病院としての責任を感じております。一方で、昨年は厚生労働省から発表された「再編統合の必要性について特に議論が必要な公立・公的医療機関等」のリストに当院の名前が含まれており、皆様には大変ご心配をおかけしました。この件につきましても、宝達志水病院は建て替えの時に地域における医療の将来像を議論し、病床数を減らす、介護型療養病棟を廃止する、といった対応策をすでに取っており、病院運営に何ら支障が出る心配はありません。

昨年は、患者さんや医療・介護職員さんなどの会合を院内で開催する機会が増えました。特に11月に能登地区の糖尿病フォーラムを当院で開催し、多くの方々に参加いただき概ね好評に終えることができました。これは大変良い経験でした。今年も地域の方々との繋がりを大切に、健康についての情報をお届けしたいと思います。

病院がこれからも揺るぎのない施設であり続けるには、患者さんの信頼が何よりも重要です。そのために、職員一同は新しい知識・技術の習得だけでなく接遇の改善などの努力を続けております。また、皆様方からのご要望は改善するための良い機会になりますので、ご意見をいただければ幸いです。昨年の「マスクミで取り上げられた出来事」、「病院の知名度が大きく上がった」と前向きに捉え、より良い病院になるため努力を重ねますので、本年もよろしくお願い申し上げます。

糖尿病フォーラム スペシャル企画

令和元年11月9日に開催された「石川県民糖尿病フォーラム in 能登」では、金沢医科大学病院 栄養部 中川明彦先生を招き、「ランチで学ぶ食後の高血糖予防法～栄養のバランスと効果的な摂取タイミング～」と題した講演が行われました。当院 堀管理栄養士が自らメニューを考え、手作りしたスペシャルランチが提供され、参加者は食事を楽しみながら食後高血糖について学びました。



おやつクッキー付き♪

★管理栄養士のこだわりポイント

糖尿病であっても、楽しめる食事

- ・ 地元の食材を使って地産地消
- ・ 野菜を豊富に使い、たくさんの食物繊維をとれる
- ・ 糖質を抑えたメニュー
- ・ 素材の特長を生かした調理方法により、よく噛める（満腹感が得られる）
- ・ 甘味は低糖質のものを使用
- ・ おやつとして、手作りの低糖質クッキー



堀 管理栄養士

「ぶりの照り焼き かぶら寿司風」の作り方

■材 料（1人分）

ぶり切り身（40g程度）	1切れ
塩	0.2g
酒	1g
濃口醤油	3g
みりん	2g
かぶ	50g
穀物酢	6g
甘味料	0.7g
塩	0.2g
大葉	1枚

- ① ぶりに塩と酒をまぶし、10分程度置き、水気を拭き取る
 - ② ①を照り焼きにする
 - ③ かぶは皮をむき、5mm程度の厚さに輪切り、甘酢漬けにする
 - ④ ③に、ぶりの照り焼きと大葉をはさみ、お好みの大きさにカットして盛り付ける
- ※甘味料がなければ砂糖3gで代用できます
 ※使用した甘味料は、砂糖の1/4のカロリーのものです

施設職員研修会へ講師として参加

リハビリテーション部

令和元年10月23日、町内の高齢者施設で「食支援の検討」についての職員研修が開催され、坂井作業療法士が講師を務めました。研修会では嚥下と食事環境、栄養評価についての講話や、嚥下評価する際のスクリーニングとして水飲みテストも実施しました。

また、現場での困難事例に対するグループワークを実施し、問題点の抽出とケアの見直しの検討などを行いました。職員の皆さんの「利用者さんを何とか改善させたい」という熱い思いが伝わり、講師自身も刺激を受ける機会となりました。



スポーツナーズって何だろう？

病棟看護師 高松久美子

平成 30 年に石川県スポーツナーズ講習会を受講しました。昨年のラグビーワールドカップ、2020 年東京オリンピックなどスポーツ界は盛り上がりみせ、看護師にも専門的な知識が求められるようになっていきます。認定資格として健康スポーツナーズという資格もありますが、私が受講したのは石川県スポーツドクター協会が主催する講習会です。

2 日間にわたり呼吸器、循環器などの生態機能と運動、メディカルチェック、健康管理、熱中症やスポーツ外傷などの運動障害の予防やテーピングなどの応急処置を主に学びました。

その後の活動は要請に応じてスポーツの大会やイベントで選手や観客の応急手当などの救護活動を行います。症状がひどい場合には救急車を呼ぶこともあります。医師と看護師は会場に 1～2 人程度の配置であることが多いため迅速で正確な判断と処置が求められます。

先日受講したフォローアップ研修では、参加者の活動報告や今後の課題についての情報交換があり、金沢マラソンや高校野球、水泳記録会など実際に救護に参加した看護師から具体的な対応策を聞くことができ、とても勉強になりました。

また、現場で活動する時に救護バックの中にあると役立つ物品の話はとても参考になりました。例えば、霧吹きや水のいったもの（水道や水が近くにない時に使用）、ウエットタオル（コールドスプレーをかけるとすぐにアイシングできる）、牛乳（折れた歯の保存液として使用できる）、ワセリン（薬の代用）、ゴミ袋（低体温時の保温に使用）などです。

私自身の救護活動は本年度の宝浪漫マラソンが初めてで、まだまだ経験・知識共に不足していますが学んだ事を実践し、スポーツナーズとして救護の現場で少しでもお役に立てるよう頑張っていきたいと思います。



認知症ケアの取り組み

認知症ケア・身体拘束防止委員会

高齢化に伴い、入院患者さんに認知症を持った人が増えてきました。また、入院という環境の変化に適応できず認知症の症状が進行したり、新たに認知症と診断される人も少なくありません。

認知症の症状には適切な対応が大切です。「患者に優しい病院」を目指す当院では、認知症の症状が悪化しないように、また発症しないように、環境の調整や対応に力を入れています。

その取り組みとして、日々のケアはもちろんですが、他者との交流の機会が少なくなる病院において、院内デイケア【おたっしゃサロン】を開催しています。体操や簡単なゲームをしたり、歌を歌ったり、慰問のフラダンスを鑑賞したり、サロンの活動を通して本人の持てる力が発揮できる支援ができないか意見を出し合っています。



当院では認知症ケア専門士が 2 名在籍しています。認知症ケア専門士は認知症に関する知識を有し、実践に活かすことが求められています。認知症患者だけでなく、その家族や周囲の人々を含めたサポートが大きな役割になります。

また、認知症ケアに関する知識を広めていく役割も担っています。認知症の症状やケアについて不明な事があれば、一人で悩まず一緒に考えましょう。



▲フラダンスで南国気分♪



▲季節の制作

能登中部地区交流研修に参加して

看護師長 土田 恵子

地域の高齢者施設の現場を訪れ実際を知るとともに地域医療・保健・福祉との連携強化を目的とする地区交流会研修が開催されました。

羽咋郡市の高齢者施設として病院、特別養護老人ホーム、グループホームなど6か所を見学しました。患者さんがよく利用している施設ですが近くにありながら一度も行ったことがなく、施設のもつ機能などに興味があり参加しました。

グループホームでは、入所者が居間のソファやこたつに座り家庭的な環境で過ごしているのが印象的でした。定期巡回では住み慣れた地域や自宅で自分らしく生活し続ける



▲地域の保健師との交流会

る事を支えるために24時間365日、訪問介護と訪問看護が密接に連携しながら定期的巡回と随時の対応を行っていました。また、新しく開放的な建物で一見カフェのような雰囲気の施設もありました。訪問看護や訪問介護、通所、宿泊などをその人の生活スタイルや思いに合わせてサービスを組み合わせると聞き、在宅介護を支える心強いサービスであると思いました。

今までは施設との情報交換のみでしたが、今回の施設見学での学びを今後の退院支援に活かしていきたいと思います。



～活動報告～

ノロウイルス対応研修会

感染管理認定看護師 浅川 由香

ノロウイルス流行時期に備え、令和元年11月11日、18日の両日に看護部・リハビリ職員を対象とした嘔吐物の処理の研修を行いました。対象職員他、清掃業者など多数の職員の参加もありました。

実際に体験することで、処理の大変さや大切さを実感できたとの意見が聞かれました。ベッドに寝たままの状態、車椅子に乗っている時など、それぞれの場面で感染拡大につなげないような処理方法を考慮する必要があります。来年度は違うパターンでの内容を検討し、感染対策の強化を図りたいと思います。

火災想定での
消防訓練を実施

令和元年12月5日に消防訓練を実施しました。3階倉庫からの出火を想定した訓練で、初期消火、避難誘導訓練などを行い、火災発生時に迅速かつ安全に患者さんを避難させる行動を確認しました。

これからも、より実践的な想定での訓練を行い、職員一人ひとりの防災や防火に対する意識向上と日々の安全確保に努めていきます。



▲シートを利用した搬送訓練